

早稲田大学 教育学部 化学 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	

〔大問別講評〕

番号	出題内容・コメント
I	化学結合と結晶に関する出題である。教科書問題集の『基本～発展例題』程度のレベルである。日頃の復習をしていれば、解答には時間はかからないはずである。
II	酸化還元と電気化学に関する出題であった。I同様に教科書で見る内容、教科書準拠問題集でよく見るような問題である。問2の記述で悩む者もいたかもしれないが、教科書や資料集に記されている内容であるので、悩むことはなかったであろう。『基本～標準』の問題である。
III	16属元素に関する出題である。内容も教科書問題集で見かける問題ばかりで、日頃の演習がしっかりできていれば、解答できるはずである。問題のレベルは『標準』である。
IV	一般的な有機化学の構造決定に関する出題である。問7の記述では、同一炭素原子数のアルカンの異性体の沸点について理解できていれば、難なく解答できたと考えられる。

〔総合コメント〕

昨年度に比べて大問の数は減ったが、問題数、問題のレベルは、大きく変わった印象はなく、『基本～標準』といったところであろうか。問題読んで熟考するものは少なくなった印象である。日々の演習の中で、典型・頻出問題を繰り返し扱えていたか、教科書や資料集などで、化学用語を説明できるくらいまで知識を身につけることができていたかがポイントとなるであろう。
--